

文化

今年の「黒板アート甲子園」で最優秀賞を受賞した富士宮東高の作品。右は中心になって制作した塩沢海斗さん。静岡県富士宮市



学校の教室で、教員が授業の内容を書く黒板。これをキャンパスに見立て、中高生の間で盛り上がり

中高生に人気「黒板アート」

ヨークで一面に色鮮やかな絵を描く「黒板アート」が、新たな表現手段として注目されそうだ。

黒板に穴があき、教室と野生の世界がつながる。キリンやトラが飛び出すのを見て、驚く生徒たち。静岡県立富士宮東高の美術部員がバーチャルリアリティ（仮想現実）の視覚効果を利用して、縦1尺、横4・5尺に描いた作品だ。

動物の毛並みなど細かい部分はハケでほかし、消しゴムで影との境界を明確にした。2016年に続き今年開かれた「黒板アート甲子園」には87校が参加。富士宮東高の作品は独創性が評価され、最優秀賞を受賞した。

中心になって制作した3年塩沢海斗さん(18)は「紙と違い黒が基調なので、明るさを加えていく作業。このサイズで絵を描くことはなかなかないので楽しい」

名前【 】

① 今年、「黒板アート甲子園」で、最優秀賞を受賞した学校はどこでしょう？

【 】 高等学校

② 最優秀校の制作者の一人、塩沢さんは、黒板アートのどのようなところが楽しいと話していますか？

【 】

③ あなたは、この「黒板アート甲子園」のように、全国の高校生が何かを発表する、どのような「甲子園」があれば、挑戦してみたいと思いますか？「〇〇で戦う(競う)、〇〇甲子園」の形で自由に書きましょう。

【 】

新たな表現手段、全国大会も開催

と目を輝かせる。学校外にも活動は広がる。東京都内にある献血ルームに今年1月、天使の翼をつけた女の子を描いた作品が飾られた。16年の黒板アート甲子園に参加した神奈川県立弥栄高の生徒た

ちが描いたもので、献血呼び掛けのPRに「役買った」。美術教育を研究する武蔵野美術大学の三沢一実教授は「卒業式などで黒板に絵を描く例は前からあったが、会員登録交流サイト(S

NS)で作品を発信しやすくなり、注目を集めるようになった」と指摘。「身近な道具でチャレンジしやすいこと、授業の場を時的に非日常へ変えてしまう力が大きな魅力になっている」と分析する。